

# ホクコープリンス®粒剤

■種類名：フィプロニル粒剤  
 ■有効成分：フィプロニル-----1.0%  
 ■化管法指定物質：フィプロニル [第1種] -----1.0%

■登録番号：第24011号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：2017.12.06  
 ■性状：類白色細粒  
 ■有効年限：5年(担い手直送規格は2年)  
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋  
 40kg (担い手直送規格)

## 【特長】

- 円柱状の新製剤にリニューアルし、各種散布機での散布調整がより容易になった。
- 幅広い殺虫スペクトラムを有しており、育苗箱施用で主要水稻害虫を長期間防除する。
- 薬害安全性が高く、は種前、は種時から移植日まで使用できる。
- キャベツ、ブロッコリーの育苗期間中のハイマダラノメイガに高い効果を示す。

## 【適用内容】(2023年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	717°0Lを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回
稲 (箱育苗)	ウンカ類 イナゴ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イネヒメハモグリバエ コブノメイガ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50g  高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌約5%) 1箱当り 50~100g)	は種前		育苗箱の床土 に均一に 混和する。	
	ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イナゴ類 イネヒメハモグリバエ コブノメイガ フタオビコヤガ イネクロカメムシ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50g  高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50~100g)	は種時 (覆土前)~ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。	
	イネシンガレセンチュウ	育苗箱(30×60×3cm、使用土 壌約5%) 1箱当り 50g  高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50~100g)	は種時 (覆土前)			
	イネアザミウマ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50g  高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌約5%) 1箱当り 50~100g)	移植3日前~ 移植当日			
		イネカラバエ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50g  高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50~100g)		移植当日	

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	717°0Lを含む農薬の総使用回数	
キャベツ	ハイマダラノメイガ	0.2 g/株 (但し、50g/m <sup>2</sup> まで)	地床育苗期	1回	株元散布	3回以内 (定植前の処理は1回以内、定植後の散布は2回以内)	
	ハイマダラノメイガ コナガ	セル成型育苗トレイ1箱 または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約3~4%) 当り20~30g	は種前		本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。		
			は種時		本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する。		
	プロックリー		ハイマダラノメイガ		は種時~定植前		本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する。
は種前					本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。		
きく	アザミウマ類		6kg/10a		は種時		本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する。
					定植前	植溝土壌混和	

### 【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- 移植時に使用する場合には、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植時期を過ぎた苗などには薬害を生じやすいので、注意すること。
- は種時覆土前散布及びは種前床土混和の場合、低温で生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意すること。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきはていねいにを行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤による中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水稲に使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - ・水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
  - ・水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- 畑地に使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - ・水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：密封し、火気をさげ、食品と区別して、直射日光の当たらない冷涼な場所に保管すること。